

第 1 回 高校教育改革実行計画策定委員会【発言要旨】

1 協議事項

高校教育改革実行計画の策定に向けて、課題の整理と方向性について、以下の視点で協議する

- (1) 高校教育改革の方向性（課題、留意すべき点、加えるべき視点）
- (2) 改革先導拠点 4 校の取組の方向性（各類型で求められるポイント、留意点及び視点）
- (3) 2040 年に向けた視点・取組の全県への波及

《共通認識》

- 本計画は教育のみならず、県の未来に対する戦略であり、産業界、大学等、様々な外部機関と連携して取り組む必要がある
- 実行にあたっては、改革先導拠点校及び協力校だけではなく、全県で取り組む

2 主な意見

《高校教育改革の方向性》

- 2040 年までに生産年齢人口が 22%程度減少することを考えると、高校教育改革は、単に高校の改革ではなく、地域の産業をどうするかという戦略である。教育においては、何を教えるかではなくて、どのような力をつけたいか、どのような人を育てたいか、という視点が大切。知識そのものの習得ではなく、自ら課題を見つける力、多様な他者と協働する力、新しい価値を創出する力の育成が必要。（木村委員）
- 高校生を地元に残すという視点だけではなく、世界で活躍できる人材を静岡から輩出するという視点が大切。（木村委員）
- 静岡県に戻りたくない一番の理由が、「希望する職場が無い」ということだが、地元の企業を知らないということが一番の理由。それは産業界の課題でもある。（紅野委員・岸田委員）
- 高校、大学、企業も入って協働プログラムに取り組むのも良い。企業を知るとするのは、ただ企業紹介ではなく、企業の課題に触れることが必要。（木村委員）
- AI に代替されない能力を持った人材の育成や個性の伸長という点では、AI が出した答えを正しいと判断できるかという視点が必要。（江頭委員）
- 一番重要なのは、AI をきちんと使いこなせるか。（西原委員）
- 今の高校生が社会で活躍する頃には間違いなく A G I の時代が来ている。地域産業がどう受け入れていくか。また、世界で活躍する人材という点では、これから成長していくアジア諸国にも注目していく必要がある。（東委員）
- 高校教育改革実行計画ということだが、国への提言も含めて、大学改革まで手を入れて良いのか、そこが見えない。（岸田委員）

《改革先導拠点 4 校の取組の方向性》

- 改革先導拠点 4 校のバランスがとても良い。取組内容も県の課題をそれぞれの学校が担っており、取組に期待したい。（木村委員）

- 幅広い学力層がいるなかで、県立高校としてどこまで手を入れていくのか。公立高校という視点で見ると、社会的自立に向けた能力の育成まで視野に入れて取り組むことができれば大変素晴らしいと感じる。(岸田委員)
- 実際に改革に取り組むにあたり、教職員が「やりたい」と思えるか、マインドセットの問題がある。マインドセットこそ「AIに代替されない」ということだろう。(西原委員)
- 静岡県内の大学ともっと連携をして、改革に取り組む。また、県内の大学をどうするか、という点についてもこの改革で取り組んでいければよい。(西原委員)
- 4校の改革先導拠点校が目指す計画の内容は、県の課題解決に向けた大変素晴らしいものだと感じるが、これをやっていくのは現場の先生方。これをどう現場に落とし込んでどう進めていくか。またその取組を大学とどう連携するか。取組の方向性や全県への波及の議論については、現場の先生方や高校生、大学生たちが中心になって、実際の声を取り入れながら協議をした方がよい。(西原委員)
- 高校生のうちから最先端の技術に触れることは大切であるが、本当にこれだけの計画を高校の先生だけで実現できるのか。大学、産業、外部との連携が重要。(岸田委員)
- 大学との連携という視点では、産学連携リスキング・エコシステムと連携して取り組めると良い。特にアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成では、いかに最先端の現場を見る経験を積むかが大切であり、学びの枠組みを変えていくことが必要。(東委員)
- 文理融合という視点は非常に重要。理系分野だけを推し進めていくと、社会実装の時点で壁ができる。文化人類学や人文社会学の視点が必要な例も多くある。そういう点では、地域・社会課題に向き合う時には、文理融合で様々な視点を入れてプロジェクトに取り組むことが極めて重要。例えば公共政策への取組もやっていると良いのではないか。(東委員)
- 理系人材の育成では、自治体とも連携して、小学校のうちから文系が好きな子も算数が好き、理科が好き、そういった基盤を育てておくことが必要。今、小学校で理科を教えられる教員が本当に少ない。教える人材を育成するという視点も必要である。(西原委員)

《全県への波及》

- 横展開をするには、まず、拠点の取組で成果を出すこと。そもそも、改革が本当にできるのか。外部連携も含めて本当に実現できる体制が整っているのか。そこからだ。(岸田委員)
- 医療人材の育成については、浜松医科大学と連携している。医療人材の育成には、進路担当教員の理解が非常に重要。福祉系については、大学に進む人も少なくなっている。新卒人材が減っていく中で、大学が社会人の学び直しにも対応し、人材を確保できると良い。(高須委員)
- 産業人材の育成という点では、今回の4拠点の取組に非常に注目している。県知事はスタートアップに力を入れている。浜松工業のスタートアップ、沼津東のファルマバレープロジェクトなど、産業界と連携した取組が多く今回の計画に入っているので期待している。(齊藤委員)
- 学校、先生方のやる気にかかっている。やりがいを持ってこの改革に取り組むことが先生方の働き方改革、一人一人のウェルビーイングにもつながると良い。(西原委員)